

私は子どものころは、本よりもマンガやテレビが好きだった。小学四年の時に見たアニメ映画で生きる意味を知り、少女マンガで人間関係や国語を学び、テレビドラマで大人社会を目で感じ取った。本がなくても困らず楽しく生きてこられた。息子を出産するまでは。

それまで子どもに無関心だった私は、息子にさんざん泣かれて苦しんだ。自分の至らなさを恥じた。手持ちの育児書では解決できなかった。

図書館へ。その品ぞろえに感動した。出産後初めて借りた本は『赤ちゃんが朝までぐっすり眠る方法』。効果は？だったがとても参考に。後発ながら読書好きになり、図書館通いをするようになった。

結局息子の夜泣きは、二歳半過ぎて夜の授乳をやめるまで続いた。今思うと無学ゆえに随分回り道をしたものである。後追いがひどく、克服したのは二歳直前。その後もお友達と仲良く遊べず、私とばかり遊びたがるので、ママ友とほとんどおしゃべりできない日が続いた。そんな時も友人と育児書を紹介しあえたので不安を解消できた。

## わたしと 図書館



### 息子とともに 安部 珠美

ちなみに私のひいきは、明橋大二先生と汐見稔幸先生である。育児に手遅れはない、に目からウロコ。読み聞かせは早い方がいいと聞いたので、息子が0歳の時から絵本を与えた。手持ちの絵本では足りないのが『こどものともシリーズ』。初めは赤ちゃん向けの『0・1・2』、絵がほとんどで文章控えめ。ところが息子はアンクルをせがむ。十冊ずつ借りてすべて読む、を毎日くり返したら、『年少版』も逃げずに聞いてくれるようになり、今では絵本好きに。一時間以上続けて読まされた時はキツかった。

息子は今春幼稚園の年少組に入園した。おかげさまで登園しづりもなく元気に通っている。リテラシーも順調で、お友達と仲良く遊べているようだ。私自身は、いざ子どもを入園させたら暇になってしまった。あれほど息子に悪戦苦闘した日々が懐かしい。おかげで新たな疑問や目標もわいたので、今後も息子とともに、図書館通いを続けたい。

事データ約五三〇〇件を収集し、西東京に関する情報提供を進めてきました。図書館ホームページ新聞記事索引は、三〇〇〇件を超えるアクセスがありました。

「写真展の開催」については、三年目となる「なつかしの田無・保谷写真展」に二百五十五人の方の来場がありました。会場アンケートでは、満足度八七・六％の評価をいただきました。「パネル図録」を市内各学校、関係機関へ配布した結果、十一団体三一点の利用がありました。

「歴史的資料の修復」については、西東京市総合計画に基づき図書館が所蔵する歴史的資料「寛文十年田無村御検地帳」三一〇丁の修復が、完了しました。デジタル化及び複本の作成により情報公開が可能となりました。今後、広く活用していただけるよう積極的に公開していきます。

## 21年度

### 事業評価を終えて

はじめて行った事業評価は、各担当が改めて事業への取り組みを詳細に分析するよい機会となりました。

図書館自ら行う一次評価は、今後の事業を計画していく上で必要なものです。加えて、図書館協議会による二次評価を受けたことは、今後のサービスを考えていく上で大きな収穫となりました。五つの重点事業と十七の事業計画の中の五十一項目、そ

れぞれを分析・評価するという、時間のかかる作業を担ってくださった委員の方々感謝いたします。

毎年、利用の拡大を図るために、新たな試みに取り組んできました。数字に表れる利用実績が伸びると運営が充実しているような感覚があり、増加した数字に目がいきがちです。しかし、図書館には、様々な年齢層の、様々な立場の、様々な目的の利用者が毎日来館されます。たとえば、ここ数年、高齢の方たちを中心に、新聞を読もうと開館前から図書館の入口に並ぶ風景が定着しています。貸出冊数や予約件数等の数字で表せるサービスを求める方たちばかりではない、と改めて実感します。

今回の事業評価を生かし、地域の生涯学習・情報発信の拠点として、「ひと」「空間」「資料」という三つの要素を活用しながら数字で把握できないサービスも提供していきます。



## 編集後記

五月半ばから毎週一館ごとに実施してきた特別整理作業を終え、図書館職員は、梅雨空の下でも晴れ晴れとした気分でお出動しています。おのおの担当する今年度の事業への取り組みも本格化し、子どもの利用が増える夏休み前に整えるべきこともたくさんあります。図書館に期待をよせて利用されるみなさんにとって、意義の有る場でありたいと願います。